

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571500200		
法人名	株式会社 まつもと		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	山口県周南市櫛ヶ浜西浜田517-11		
自己評価作成日	令和元年8月20日	評価結果市町受理日	令和1年11月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	令和1年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者の方々と職員が家族として生活をしています。家庭での生活の中でできること、ご本人の意思やご家族のご意向に副ってできる事を行っていただき、職員もご本人の思いに副えるよう日々頑張っています。ご本人、ご家族が安心していただける対応を心掛け、医療連携医院である高木内科クリニックの高木医師と連携し重度化や看取り期にはついては、ご家族がご希望されればホームで看取り対応させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議に多数の地域メンバーや家族が参加され、充実した内容で話し合いをすすめておられます。災害対策では、話し合いを基に年2回、消火、通報、避難経路や場所の確認、避難誘導、見守り等の訓練を、消防署や地域の人の協力と参加を得て利用者も一緒に実施しておられ、緊急自動通報装置で自治会長にも通報が届き、自治会班活動の中で協力を得られるなど、地域との協力体制を築いておられます。近所の人に事業所での米ぬかを配ったり、野菜や菓子の差入れを受けて事業所での三食の調理や利用者の楽しみに活用されているなど、日常的な生活の中で地域との交流をしておられます。利用者は職員と一緒に食事づくりや片付けに参加され、同じものを同じテーブルで会話を楽しみながら食べておられ、職員も利用者に対して家族のような気持ちで声をかけておられます。職員間の良好なコミュニケーションや連携医療機関との連携で、利用者を家族のように看取るまで支援するよう取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サービスを提供するうえで常に意識できる理念で共有している。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。利用者だけでなく、家族や地域の人々の安心も得られるように、職員間で意識して共有し、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、清掃・消防訓練・運営推進会議への参加がある。ご近所からの野菜等の差し入れがある。	自治会に加入し、職員が回覧板を回したり、年2回の地域の清掃活動に参加している。ボランティア(社交ダンス、3ヶ月に1回のヘアカット)の来訪がある。年1回、保育園児と法人他事業所と合同で交流している。事業所で精米時に出る糠を近所の人に分けたり、お菓子や野菜の差し入れを受けたりしている。近所の人々がプランターに野菜の植付をしてくれている。利用者は近隣での買い物や散歩の時に挨拶を交わしているなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	生活が安全に送れるよう自治会長や民生委員の方々と連携を行っている。運営推進会議に参加された地区の方々に情報を伝えている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者・管理者・職員は自己評価及び外部評価を実地し、評価を活かして反省や改善するよう取り組んでいる。	管理者は、職員に評価の意義を伝え、評価のための書類に、書ける職員が項目ごとに記入したものを、管理者がまとめている。全職員が意義を理解し、評価の活用に意識的に取り組んでいるとは言えない。前回の外部評価結果は、全職員に回覧してケアの振り返りの機会とし、利用者の状態に合わせた気づかいや、誇りを傷つけない声かけ、プライバシーの確保(トイレ誘導やおむつ交換、更衣介助)などの改善に取り組んでいる。	・全職員の評価の意義の理解と活用の工夫

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況など報告し議題について参加者に意見をいただきサービス向上に活かすよう努めている。	法人他事業所と合同で年6回開催している。利用者の状況、ヒヤリハット・事故報告、行事・活動報告などを行い、テーマ(身体拘束廃止に向けた取組み、インフルエンザ・ノロウィルス対策など)を決めて意見交換をしている。身体拘束廃止委員会を同時に行っている。会議を事業所の行事にあわせて開催したり、前自治会長にも参加を呼びかける、前回の会議録を配布するなど工夫して、地域メンバーの参加が増え、多くの意見を得ている。事業所が地域に認知され、災害時の協力体制を築くなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課との連絡や相談、運営推進会議の参加にてサービスの現状を伝え助言をいただき、よりよいサービスの提供に努めている。	市担当者とは、運営推進会議時やメール、電話などで情報の提供を受けたり、相談して助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換したり、民生委員とも連携して地域情報の交換をし、認知症カフェの案内等、連携して取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務中に身体拘束について理解できるように話し合い、対策が間違っていないか確認するようにしている。玄関の施錠はしていない。	職員は業務の中で利用者への対応について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束に関する経過記録を活用して、代表者や管理者が月に1回チェックし、運営推進会議時の身体拘束廃止委員会で意見を求めている。スピーチロックで気になるところは、その都度管理者が注意したり、職員同士で話し合いをしている。玄関の施錠はせず、外出したい利用者とは、職員と一緒にコンビニエンスストアに行き買い物をしているなど、気分転換の支援をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	回覧にて虐待防止を理解し、虐待が起こらないように環境整備を行い防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員がどの関係機関と連携するのか理解できているとはいえない為、しっかり学ぶ機会を持つ必要がある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を事前にお渡しし、契約時には説明と疑問点が理解、納得していただけるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時などを通して苦情・意見や要望について話し合い運営に反映させるように努めている。	契約時に相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続き等について家族に文書で説明している。家族の面会時に職員が利用者の日頃の様子を伝え、意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている他、電話や運営推進会議で意見や要望を聞いている。介護相談員が月2回来訪している。ケアに関する要望にはその都度対応している。ノロウィルス対策への意見から、事業所独自に次亜塩素酸水をつくり、年間を通して噴霧しているなど、意見や要望を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務時間内外で意見を聞きその都度改善するように努めている。	代表者や管理者は日常業務の中で、職員の意見や提案を聞き、その気づきや提案をメモに書き留めて、他の職員にも意見を求めている。年3回、勉強会を兼ねた親睦食事会を開催し、自由に意見が言えるように努めている。職員の意見から、風呂の給湯設備を充実したり、LED電球に交換するなど、意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場で起きている状況や変化を把握し、職員個々の努力や実績も把握しており、職員が向上心を持って働ける環境整備に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、働きながらトレーニングしていくことを勧めている。法人内外での研修の機会を確保できるように努めていきたい。	外部研修は、職員に情報を伝え、参加の機会を提供することとしているが、この1年に参加した職員はいない。法人研修は年3回、薬剤師を招いて、インフルエンザ、ノロウイルス、誤嚥をテーマに実施し、資料はいつでも閲覧できるようにしている。内部研修は月1回、てんかん発作、後見人制度などその時々で、カンファレンスと同時に実施している。	・職員が外部研修に参加できる工夫 ・内部研修実施の工夫
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会を見つけ事業所同士の協働のより向上に努めていきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関りを持ち傾聴することで不安を軽減し、日々の生活の中で信頼関係を築いていけるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族や関係機関からの情報を基に、不安な事や要望等を傾聴し関係づくりを務めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人のご意向を尊重し、サービス開始時に必要な支援を見極めプランを作成しサービスの提供を行う。また開始後には状態に応じて検討し見直しを行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする家族として、できる事・行いたい事を優先に考え、全てを支援するのではなく必要な部分の支援を行い、共に生活していく者同士の関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係が継続できるように状態をお伝えし、面会時にはご本人の状態や思いを把握して面会していただけるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の関係性を把握し面会時には良好な関係が継続できるように間を取り持ち、外出時には外出先での出来事をお聞きし馴染みの関係を忘れず継続できるよう努めている。	家族の面会や親戚の人、友人の来訪、近所の人の立寄り、馴染みの美容師の来訪、年賀状や礼状、電話などでの交流を支援している。家族の協力を得て法事への出席、自宅周辺のドライブ、自宅外泊、外食など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、個々人の性格や心身の状態を考慮し、座席や活動内容を配慮し支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	其々の形で代表者やホーム、ご家族同士との関係性が継続されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、会話や表情・行動から思いや希望等を汲み取るようにし、得た情報は職員間で共有し本人本位に検討するようにしている。	入居時のアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中での利用者の様子や言動からの気づきを処遇日誌に記録し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から聞いた情報を基にカンファレンス等で本人本位に検討し、職員間で共有している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報やご本人との会話の中で得られた情報を生活の中に取り入れ活躍できるようにしている。		
26		カンファレンスを行い 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で有する力、状態の把握、心身状態を職員が共有できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、ご本人の要望や意向に沿う介護計画になるようアセスメント・モニタリングを繰り返し作成している。	計画作成担当者を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の思いや意向、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月又は1年毎に見直しをしている。利用者の状態が変化した時は必要に応じてカンファレンスを行って見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有し蓄積した情報を基に見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	集団生活である為、ご本人・ご家族が安心して生活できるように、現状に応じて支援することを心掛けている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として関係性が継続できるように、行事に参加したり買い物等で暮らしが楽しめるように努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご契約時に、かかりつけ医をお聞きし希望があればホームで受診対応しているが、ホームの連携医院での24時間体制の支援を説明し、納得が得られ希望されれば連携医療機関の受診対応している。	本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としているが、現在は全員が事業所の連携医療機関をかかりつけ医としている。事業所が受診支援を行い、結果は必要に応じて家族に電話や面会時、毎月の手紙で報告し、処遇日誌に記録して職員間で共有している。他科はかかりつけ医の紹介で受診支援を行い、歯科は月1回訪問診療がある。緊急時や夜間はかかりつけ医と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員が日々の健康管理を行い状態の変化に気づけるようにしている。非常勤看護師との連携で報告や相談、指示を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院に出向き環境の変化を最小限にするようにしている。主治医とご家族と連携し、早期退院に向けて対応している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態を細目に報告し、ご意向・要望に応じた対応を行い、看取りを希望していただければ主治医との連携でホームで可能な限り対応している。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明して意向を聞いている。実際に重度化した場合は、早い段階から本人や家族、かかりつけ医等と話し合いを行い、看取りを希望する場合は十分に話し合って方針を決めて共有し、関係者が連携して支援に取り組んでいる。今年は3名の看取りを行っている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	誤薬防止の為準備から与薬は二人体制で行い確実に服薬できたか確認を行う。急変時や事故発生時の対応は消防署の方を招いて実践できるように取り組んでいる。	事例が生じた場合は、その日の職員で原因や対策等について話し合い、ヒヤリハット、事故報告書に記録し、全職員で共有している。玄関ポーチに手すりを設置したり、利用者一人ひとりの状態に合わせたベットや寝具を利用して転倒防止に取り組んでいる。日頃から利用者の状態を把握するよう心がけ、必要に応じてその都度ミーティング行っている。消防署の協力を得て初期対応の訓練を行い、インフルエンザ、ノロウイルス、誤嚥をテーマに法人研修を実施しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の充実
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方と訓練を行い会議にて話し合い協力体制を築けるように努めている。	年2回(4月、10月)、消防署や地域の人の協力と参加を得て、夜間を想定した消火、通報、避難経路や場所の確認、避難誘導、見守り等の訓練を、利用者も一緒に実施している。運営推進会議で災害対策について話し合い、自治会防災部長や民生委員などと日常の会話でも話をしている。緊急自動通報装置に自治会長が加入して、通報があれば地域住民の協力が得られるようになっており、自治会班活動の中で、協力体制を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない声かけを心掛けているつもりでも、スタッフ側の都合で不適切な言葉や対応になっていることがある。	日常業務の中で人格の尊重とプライバシーの確保について話し合い、職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になるところはその都度管理者が注意したり、職員間で話し合っている。個人情報の管理に留意し、守秘義務を遵守している。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望に添えるよう少しの事でも選択肢を設けたり自己決定できるよう、また希望が叶えられるよう働きかけるようにしている。			
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ側の都合になっている事もある為、可能な限り予定を一緒にたてるなど時間を作るようにしている。			
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい服を選んでいただいたり、鏡を渡し整髪、髭剃り、口紅を引く等おしゃれを楽しんでいただいている。			
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新聞の広告を見て食べたい物や好みを聞き、献立を決めたり一緒に野菜を切ったり楽しみながら準備している。	利用者の好みに配慮した献立で、地域の人からの差入れの野菜などを使って、三食とも事業所で調理している。利用者の状態に合わせて、キザミ食やミキサー食、おかゆなど、形状や食器に工夫して提供している。利用者は米とぎ、下ごしらえ、テーブル拭き、下膳、お盆拭き、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルで同じ食事を、会話を楽しみながら食べている。季節の行事食(おせち、節分の恵方巻、ひな祭りや敬老会などでのちらし寿司、誕生会のケーキ)や外出行事での外食、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じて適切な形態で食事・水分量を確保できるようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行う支援をしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるように支援している。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導をしている。利用者が尿意を感じた時に知らせることができるように呼出ブザーを設置しているなど、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るのではなく体操や繊維質の多い食品、海藻や水分量等で排便を促すようにしている。また排便状況を全職員が把握できるようにしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望や体調に合わせて支援している。入浴拒否があれば時間をおいて声かけしたり、足浴に変更して支援している。	入浴は毎日、10時から11時30分までの間可能で、週2～3回は入浴できるように支援している。仲の良い利用者同士で一緒に入れる日を設けたり、季節の柚子湯や入浴剤の使用など、利用者がゆっくり入浴を楽しめるように工夫している。体調に合わせて清拭や足浴、シャワー浴などの対応をしている。入浴したくない人には曜日や時間の変更、声かけの工夫をしているなど、一人ひとりに合わせてた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の生活に合わせて就寝時間の調整をしている。寝具や室温を調整し安眠できるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	きちんと服薬できたかを確認し、状態に応じて対応できるように看護師との連携で支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護計画に沿いながら、一人ひとりの力量や好みに合わせて役割を決め活躍できるように支援している。	敬老会や母の日の行事、誕生会のケーキ飾り、テレビやラジオの視聴、雑誌を読む、習字、トランプ、輪投げ、風船バレー、うちわバージョン、黒ひげゲーム、クロスワードパズル、折り紙、ぬり絵、貼り絵、ちぎり絵、カラオケ、編み物、CDで童謡を聴く、歌う、口腔体操、周南しゃっきり体操、梅干し体操、保育園児との交流、洗濯物たたみ、おしぼり巻き、食事の準備や片付け、ボランティアと一緒に野菜の植付け、草引き、事業所で飼っている犬の世話など、利用者一人ひとりの力を活かして、楽しみごとや張り合いのある場面をつくり、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に個々の希望で外出ができていないとは言えない。	桜の花見、近隣の散歩や商店での買い物、法人他事業所に出かけてのお茶や足湯、防災避難訓練、家族の協力を得ての法事への出席、自宅周辺のドライブ、自宅外泊、外食など、戸外に出かけられるよう支援しているが、一人ひとりの希望で外出ができていないとは言えない。	・日常的な外出支援の工夫
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居時に金銭所持についてはご家族とお話しし、ご家族やご本人のご意向に応じているが所持されている方は居られない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話には会話ができるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節を感じられるように異なる掲示物を皆で作成し掲示している。混乱を招かない配置にし居心地良く過ごせるように配慮している。	大きな民家を思わせる玄関を入ると、災害対策の非常持ち出しリュックが置いてある。リビングの天井は高く、ウッドデッキからの自然な光で明るい。壁には施設名の入った大漁旗、タペストリー、絵画、折り紙作品、大きな日めくりなどを飾っている。大きな木製テーブルや椅子、テレビ、ソファを配置し、利用者が食事をしたり、ゆっくりとくつろげる場となっている。キッチン是对面式で調理の音や匂いが漂い、家庭的な雰囲気を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮し、事業所独自で次亜塩素酸の噴霧による感染防止に取り組んでいるなど、安心して居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席配置を気の合う者同士や一緒に活動できるように配慮し工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新たに購入するのではなく使い慣れた家具や寝具をご準備していただき、ご自分の部屋だと感じ少しでも安心してお過ごしいただけるようにしている。	ベットや寝具、箆笥、衣装ケース、カラーボックス、テレビ、机、いす、スツール、ぬいぐるみ、過去帳など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真、カレンダー、ぬり絵の作品などを飾っている。状態に合わせた家具の配置や動線の確保などの環境整備を行い、本人が安心して居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態、その日の体調に応じて見守りや声かけで誘導を行い安全にできるだけ本人ペースで生活できるよう支援している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームこころ

作成日： 令和 1 年 11 月 25 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故防止の取り組みや事故発生時の備えを職員で話し合い、その場では理解できていても実際に事故発生時に全職員が迅速に、適切な対応が出来るようにする必要がある。	全職員が実践力を身につける。	事例が生じた場合、全職員で対応できるように情報を共有し検討、訓練をする。 自分一人でも迅速に対応できるようになるまで管理者が指導する。 定期的に研修する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。